



## 「はてなるマーク」を使って、 主体的・対話的で深い学びの授業づくり



明星学苑教育支援室長・明星小学校校長 細水 保宏

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学びの実現」が重要なキーワードとして掲げられています。では、どんな授業をすると、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるのでしょうか。

その答えは、「子どもの問い」にあります。

問いをもち、その問いを学級のみinnで協働的に解決し、さらに新たな問いに向かう、このような問いの連続こそが、主体的・対話的に深く学ぶ子どもたちの姿です。

授業づくりも、子どもの問いを軸に考えることが大切です。

最初に考えるのは、本時のねらいと育てたい力、すなわち「なるほど！」です。その「なるほど！」が子どものつぶやきとともに出るように、「はてな？」を考えます。

「はてな？」と「なるほど！」の間には、子ども自身が納得解を得るための疑問や追究があります。「どうしてそう考えたの？」という発想の源を問うつぶやきや、「本当に・いつでも・どうして」という本質に迫る話し合いです。深い学びは、こうした「連続する問い??」を学級のみinnで解決していくことによって生み出されます。

「深い学び」とは教科の本質に迫る学びであり、その「実現」は子どもたちの変容の姿として表れます。子どもたちから引き出したい「なるほど！」は、「こんな見方・考え方をしたら、これまでできなかったことができた・こんなよさが見つかった」という言葉です。

また、「問いをもつ力」を身につけた子どもたちの追究は、「なるほど！」で終わりではありません。「だったら!？」と、新たな問いに向かっていきます。「数や形を変えてもできるのか・いつでもできるのか」といった問いが、次の「はてな？」を生み出します。

「主体的・対話的で深い学び」がある授業では、子どもの問いが板書に残ります。板書を見て、問いの変容を振り返ることで、子どもたちは学びの深まりを実感します。

「はてなるマーク」を使って、「主体的・対話的で深い学び」の授業をつくっていきましょう。

**「主体的・対話的で深い学び」がある授業の板書には、  
「はてな?」「なるほど!」「だったら!？」があります。**

細水保宏



